



(公財) 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115  
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106  
<http://www.yamashina.or.jp>



## アホウドリ新繁殖地形成事業による聳島での人工飼育個体の繁殖成功について

<環境省、東京都 同時発表>

平成 29 年 2 月 13 日(月)

(公財) 山階鳥類研究所

小笠原群島<sup>むこじま</sup>聳島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業※において、昨年引き続き、2008年に聳島を巣立った個体1羽と、野生個体の番いの中で産卵・孵化に成功し、雛が確認されたことが、東京都小笠原支庁の委託調査で分かりましたのでお知らせします。聳島での雛誕生が確認されたのは2例目です。

※この事業は、(公財) 山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て、新しい繁殖地を形成する目的で、伊豆諸島鳥島のアホウドリのヒナを小笠原群島聳島に移送(2008～2012年)し、その後モニタリングを実施しているものです。

### 1. 雛が孵化したつがい

2008(平成20)年に巣立った個体(カラーリング番号 赤色 Y01、9歳、雄)と野生個体(足環なし、雌)

### 2. 確認場所

聳島の北西部の雛飼育場所。Y01はこの場所で、2012年から5シーズン連続して足環なし個体と巣作りし産卵が確認されており、昨年からの繁殖に成功するようになりました。

### 3. 確認の状況

山階鳥類研究所の研究員が2017年1月12日に現地を訪れ、巣から約300m離れた地点から望遠鏡で観察し、雛を確認しました。



<親鳥（右：Y01, 左奥：野生個体）の間に雛が見える。>



撮影：山階鳥類研究所  
(小笠原群島聳島 2017年1月16日)

このほか動画（約1分間）があります。  
利用希望される方は連絡ください。

聳島およびその近くの島におけるこれまでのアホウドリの繁殖状況

	聳島	媒島(聳島から7km南)	嫁島(聳島から22km南)
2012-13年	1卵(孵化せず)		
2013-14年	1卵(孵化せず)	1雛誕生	
2014-15年	1卵(孵化せず)	1卵(孵化せず)	
2015-16年	1雛誕生		1雛誕生
2016-17年	1雛誕生		

\*アホウドリは11月に産卵し、雛は翌年1月に孵化して、5月巣立つため、繁殖は年をまたぐ

この件についての問い合わせ先

プロジェクト責任者：(公財) 山階鳥類研究所 副所長 尾崎清明

電話：04-7182-1107、Fax：04-7182-4342、メール：ozaki@yamashina.or.jp

現場責任者(写真・動画の問い合わせ先)：(公財) 山階鳥類研究所 研究員 出口智広

電話：04-7182-1107、Fax：04-7182-4342、メール：deguchi@yamashina.or.jp

広報担当者：(公財) 山階鳥類研究所 広報主任 平岡考

電話：04-7182-1101、Fax：04-7182-1106、メール：hiraoka@yamashina.or.jp

## <参考>

### アホウドリ (*Phoebastria albatrus*)

ミズナギドリ目アホウドリ科

特別天然記念物

国内希少野生動物種 (種の保存法、1993年指定)

絶滅危惧II類 (環境省レッドリスト 2012)

#### 分布及び個体数

- ・ 繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島
- ・ 非繁殖期には、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・ 1949年の調査で一度絶滅したと考えられたが、1951年に約10羽が鳥島で再発見された。1971年には尖閣諸島で少数の生息が再発見された。
- ・ 減少原因は、1890～1900年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。
- ・ 保全上の成果などもあり、現在個体数は約4,200羽 (尖閣個体群は除く) まで回復したと推定されている。

#### 形態及び生態

- ・ 成鳥は全長が84～94cm。
- ・ 成鳥は全体に白く、風切羽や尾羽が黒い。頭部は淡黄色。ヒナから2歳ごろまでの若鳥は全身黒褐色で、成鳥羽になるまでは7～8年かかる。
- ・ 繁殖期は10月～翌年5月。
- ・ 巣立ち後3～4年で巣立った場所に帰ってくる。5歳前後から繁殖に参加するが、巣立った場所で繁殖を行う傾向が強い。

#### アホウドリの小笠原再導入

現在、アホウドリのふたつの繁殖地のうち、伊豆諸島鳥島は活火山であり、万一噴火があった場合には、アホウドリの個体群に大きな影響が出る可能性がある。もうひとつの繁殖地である尖閣諸島は、繁殖状況の調査や保護活動を行うのが難しい現状である。このため、過去にアホウドリが繁殖していたことが知られている場所から、1カ所を選んで、アホウドリの営巣地を復活させることで、本種の復活を一層確実にすることが望ましいと考えられた。このために山階鳥研では、生まれた場所に戻って繁殖する同種の習性を利用して、ヒナの移送により小笠原群島聳島にアホウドリの繁殖地を作ることとした。2008年から2012年の5年間に合計70羽のアホウドリのヒナを鳥島から聳島に移送して人工飼育し、69羽を巣立たせた。聳島の飼育地には2009年から野生のアホウドリの飛来が観察されるようになり、2011年からは人工飼育した個体の帰還が認められた。2012年11月14日には、2008年に巣立ちした人工飼育個体 (カラーリング番号Y01、雄) と野生個体 (足環なし、雌) の間に初めて産卵が確認された。

なお2014年5月に、聳島から約5キロ南の媒島 (なこうどじま) において、人工飼育個体 (2009年巣立ち、カラーリング番号Y11、雌) と鳥島で生まれた年齢不詳の雄との間で1羽の雛が誕生したことが確認されている。

この事業は、(公財) 山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施している。

(以上)